



2021年4月末の業態別貸出金動向（速報）

— 都市銀行は1.1%増に鈍化、信用金庫は7.7%増 —

井上 有弘

ポイント

- 2021年4月末の信用金庫の預金は159.1兆円、前年同月比8.1%増となった。貸出金は78.4兆円、同7.7%増となった。預金、貸出金残高とも、月末ベースで過去最高額となった。
- 業態別に貸出金動向をみると、都市銀行は4月末には前年同月比1.1%増と大きく鈍化している。一方、信用金庫は、4業態のなかで最も高い増減率を続けている。

1. 信用金庫の4月末の預金・貸出金

2021年4月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は159.1兆円、前年同月比8.1%増となった(図表1)。貸出金残高は78.4兆円、同7.7%増となった。預金、貸出金残高とも、月末ベースで過去最高額となった。

2. 業態別貸出金動向

銀行については、4月末の速報が全国銀行協会から5月12日に公表された。それによると、全国銀行111行¹の貸出金残高の合計は535.6兆円、増減率は同2.6%増となった。

20年以降の貸出金動向をみると、コロナ禍で経済活動が大きく制約されるなか、信用金庫をはじめ各業態とも、企業の資金繰り支援を行

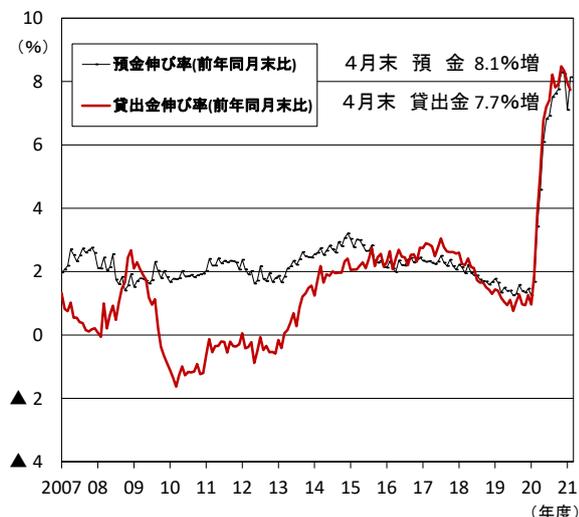
ったため、20年度前半に貸出金の増減率が大きく高まっていた(図表2)。

足元の動向をみると、都市銀行は4月末には前年同月比1.1%増と大きく鈍化している。昨年春の早い段階から製造業など大企業向けを中心に貸出を急増させていたため、前年同月比でみた伸び率は一巡している(図表3)。

一方、信用金庫は、4業態のなかで最も高い増減率を続けている。要因としては、昨年の貸出金急増が実質無利子無担保の制度融資が始まった5月からだったこと、上限額が4,000万円から6,000万円に拡大された同制度融資の実行期限が21年5月末であること、感染収束が見通せず資金繰り資金を予備的に確保している中小企業が多いこと、などが考えられる。

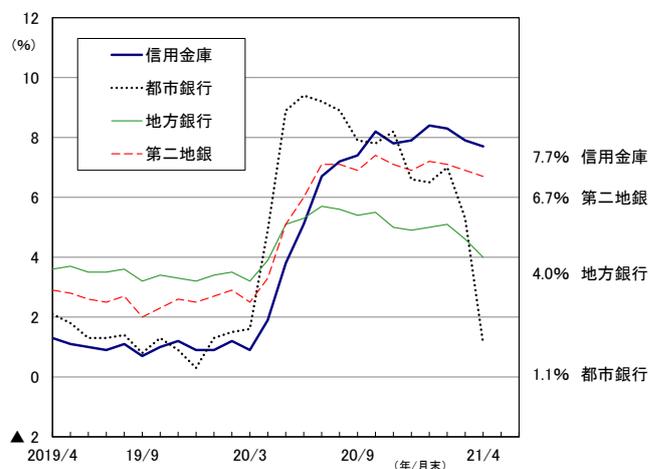
¹ 都市銀行5行、地方銀行62行、第二地方銀行38行、信託銀行4行、新生銀行、あおぞら銀行の111行

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金動向



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

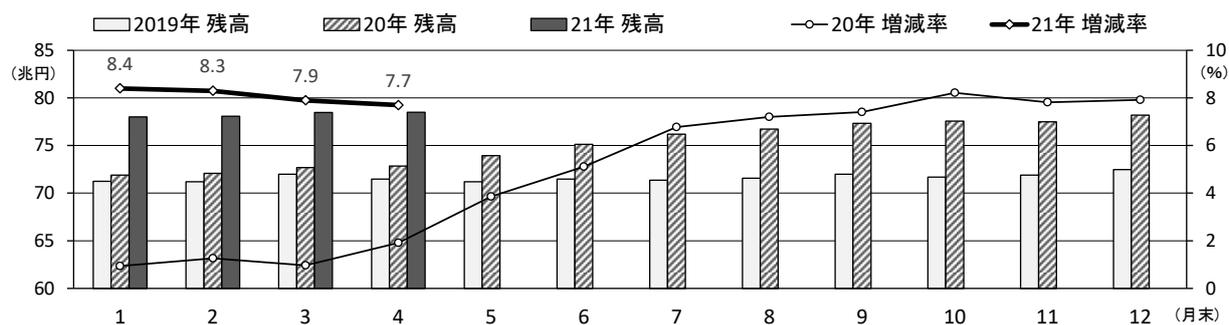
(図表2) 業態別の貸出金動向



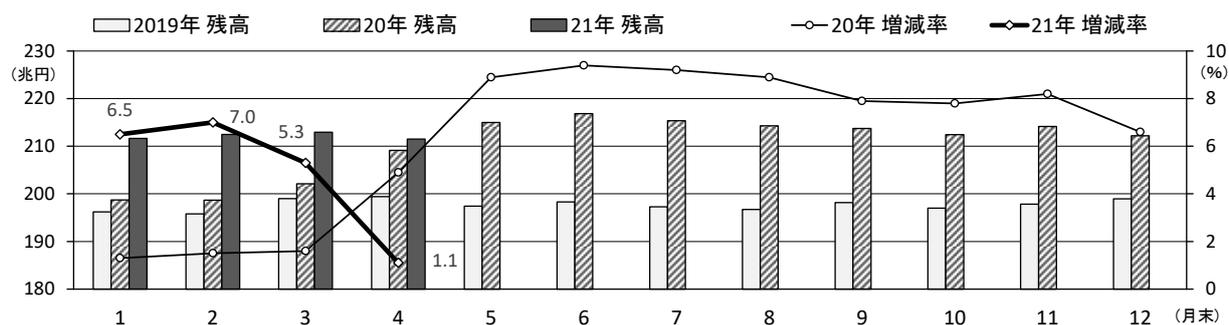
(備考) 全国銀行協会「全国銀行預金・貸出金等速報」等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 月別にみた業態別貸出金動向 (2019年1月～21年4月末までの残高、前年同月比増減率)

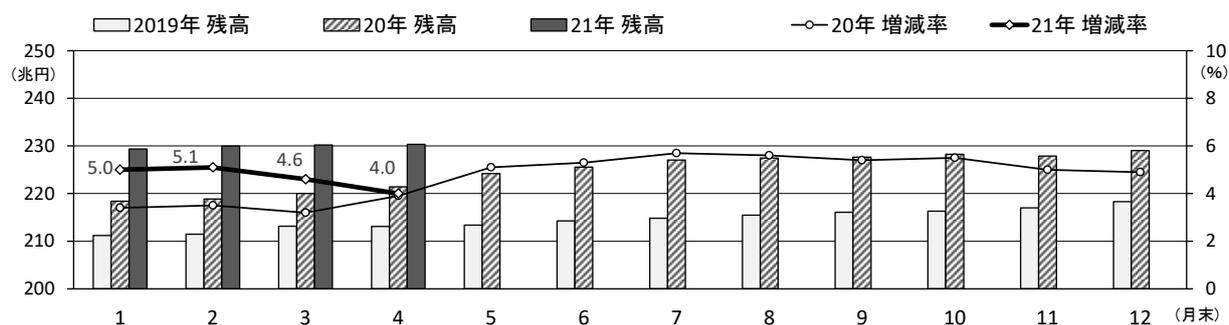
信用金庫



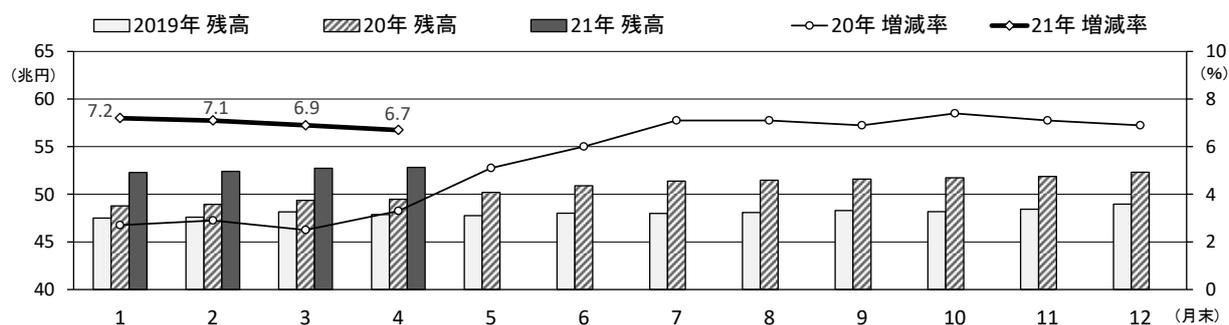
都市銀行



地方銀行



第二地方銀行



(備考) 全国銀行協会「全国銀行預金・貸出金等速報」等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」、「金融機関業態別預金・貸出金」を信用金庫に還元しております。併せて、ご活用ください。

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。